

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。



昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第787号
令和3年7月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州



社会福祉 HERO'S vol.13

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

福祉を取り巻く「イノベーション」とは

No.

787

2021 8月号



「ともに生きる」を発信する

実践目標 ② 福祉・介護の魅力発信とイノベーションの促進

みんなで
取り組む
地域共生・信州
進め！信州ふっころプラン

福祉を取り巻く 「イノベーション」とは



2020年度信州共生みらいアイデアコンテストのものづくり部門で長野県知事賞を受賞した駒ヶ根工業高校の「らくらくるまいすリフター」。阿部守一長野県知事は「介護ものづくりはまったく違う分野のように感じますがいろいろな工夫をすることで融合できるというすばらしい実例ではないかと思います」と評しました。

「イノベーション」が 福祉・介護職場の魅力を高める

イノベーションとは

高齢者の増加や介護ニーズの多様化・細分化により福祉分野でのイノベーションが今後ますます求められています。

イノベーションは「技術革新」と訳されますが、新たな価値を生み出し、新たなサービスの開発やサービス利用者の開拓など幅広い意味を持ちます。

ただ単に技術を取りこめば良いということではなく、「利用者さんのためにより良いサービスを提供したい」「介護職員の負担を軽減したい」「経営状況を改善したい」などといった思いを、様々な分野の視点から意見を取りこみ、実践方法を創出することが福祉分野におけるイノベーションといえます。

なぜ今イノベーションが 求められているのか

イノベーションが求められている背景の一つには、2040年問題が挙げられます。少子高齢化が進み、65歳以上の高齢者の人口がピークになる2040年以降には労働人口が激減して労働力不足が深刻になるだけでなく、年金や医療費などの社会保障費も増大することが予想されています。こうした状況に対応していくため、ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）などの活用や、農林業、デザイン、観光

など異業種・異分野とのコラボにより、信州から福祉・介護分野のみらいを拓くイノベーションを進めていくことが期待されています。

イノベーションの魅力

イノベーションというと、業務改善や組織改革としての視点が先行し「むしろ負担を増やしてしまうのでは」と、消極的に感じる方も少なくないでしょう。しかし、必ずしも組織内で改善を図ることだけがイノベーションではありません。

長野県が2019年度から開催している信州共生みらいアイデアコンテストは、イノベーションをテーマに福祉・介護の仕事に関わる若者の裾野を広げることを目指しています。

普段福祉ではない分野で学んでいる高校生や大学生・専門学生の日頃の学びと、福祉現場での課題がイノベーションを通してつながります。様々な分野の技術を取り入れて、課題解決に向けて実践的なアイデアを検討する中で、他分野への関心や技術活用のノウハウを培えることはもちろんのこと、他分野で学びを深める若者たちの福祉と関わるきっかけづくりにもなります。

こうした若者のひらめきや、他分野の技術活用の可能性にも期待が高まっています。

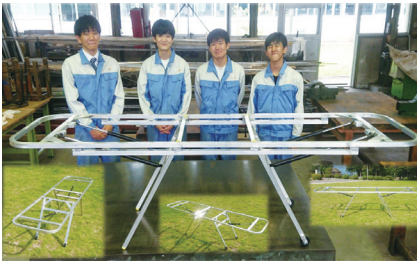
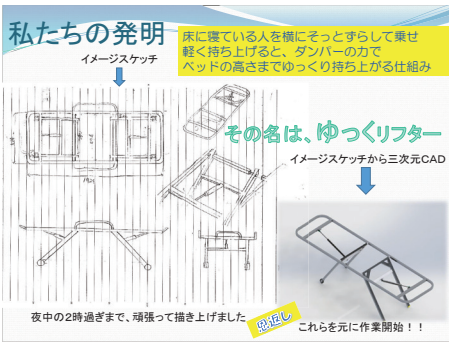
間接的でも「福祉を支えたい」!

工業高校の生徒が福祉を考える

駒ヶ根工業高校では、2019年度から信州共生みらいアイデアコンテストに参加し、介護職員の負担を減らすリフトのアイデアを考案しました。

製作にあたっては、まず施設に足を運び、課題や困りごとがないか聞き込むことから始めました。その中で「床で寝ている利用者さんを、ベッドに乗せる時に腰を痛めてしまうんだよね」という介護職員の話から、「なんとか職員さんたちの負担を軽減できないだろうか」と考えました。

そこで誕生したのがベッドへの移乗を支える「ゆっくりリフター」です。翌年には、送迎車両へ車いすのまま乗車できる安価で扱いやすいリフトを作ろうと、「らくらくくるまいすリフター」も製作しました。



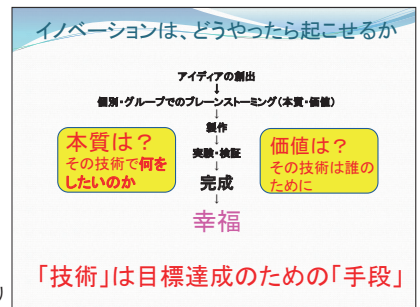
2019年度Zチームが考案した「ゆっくりリフター」

「福祉について専門的な知識はありません。でも、僕たちが学んでいるものづくりや工業の力を使って、介護する人の負担を減らせるものを作ることが、直接的ではなくとも福祉を支えることにつながると思っています」と生徒たちは話してくれました。

学びとイノベーションの価値

担当の林厚志先生は、イノベーションは目的ではなく、目的遂行にあたる一つの手段であると言います。

「イノベーション(技術革新・創造)とオペレーション(学習)の違いを理解しておく必要があります。オペレーションはかけた時間分だけの成果が出ます。一方、イノベーションはかけた時間に成果は必ずしも比例しません。まだ芽も出



コンテストでのプレゼン資料より



駒ヶ根工業高校の生徒たち

僕たちのものづくりが、介護する人や利用者さんの笑顔につながるとうれしいです!



リフターを検証する林厚志先生と生徒たち

信州共生みらいアイデアコンテスト

信州共生みらいアイデアコンテストは、日頃、様々な分野で学ぶ学生の知識を活かして、福祉・介護分野の課題や困りごとを解決するアイデアを募集しています。

2020年度は全80チームからのエントリーがあり、多くの若者の知恵とアイデアが福祉業界に新たな風を吹き込みました。参加者からは、コンテストをきっかけに福祉について考えたり、実際に考えたアイデアが社会で役立つものになって欲しいという声が上がったり、日頃の学びと福祉が掛け合われることで新たな学びを得られた様子がうかがえました。

今年度は、これまでの受賞チームの応用研究を応援し、2022年度に新規公募を行う予定です。

【解決したい課題・部門】

- A. 福祉当事者ニーズの解決
- B. 福祉・介護現場のイノベーション
- C. 災害と地域づくり

アイデア部門 ものづくり部門

2020年度は3つのテーマで2つの応募部門を設けました。



未来に向けた「種」を育てる

介護ロボットの効果と課題

社会福祉法人上伊那福祉協会のわ園では平成27年から介護ロボットHALを導入しました。HALは着用することで介護職員の介助動作をサポートする介護ロボットです。これにより腰痛を理由とした離職者が減りました。

また、見守りセンサーは、利用者につきつきりにならないといけない場面が減り、職員に余裕が生まれたことはもちろんですが、利用者のプライバシーを

守ることもつながりました。

その一方で、介護ロボット導入にあたっては、導入費用が高額なこと、操作練習など

講習が必要なこと、使える場面が限られることなど課題も見えてきました。

これらの課題を踏まえて、今後さらに介護現場で使いやすい介護ロボットが開発されることに、期待の聲が上がっています。



ICTの活用とその工夫

ICTには、クラウドなどにより多くの情報を整理できること、情報のスムーズな共有という2つの特徴があります。

同法人大萱の里では、平成21年から記録業務のICT化を図りました。

導入以前は主に手書きでしたが、テンプレート化・フォーマット化されたシステムにより、記録者が円滑に情報の入力ができ、日誌やケース記録、申し送りなどの書類作成の事務作業が軽減され、さらに、災害等による情報の損失をリスクも低減されました。

ICT化を進めることで業務の最適化、円滑化、情報の補償につながる等のメリットがあります。

副施設長の宮下幸憲さんは、システムの円滑な運用にあたっては工夫が必要だと言います。誰もが使いやすい、定着化させるために、職員に丁寧な説明を行ったり、業務時間内に記録の時間を設けたりしています。

パソコンの得手不得手など人によって差があるため、苦手な人でも使っている環境づくりのため、慣れるまでは、辛抱強く続けていくことが大切です。

働きやすい環境づくりのために

厚生労働省では、介護職員の文書等の作成に要する時間を効率化し、介護サービスの提供に集中できる時間の確保を重要視し、ICT化を推進しています。

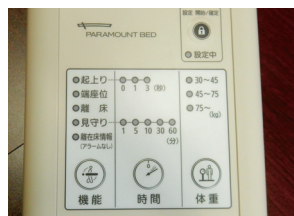
介護現場の情報をICT化することに

みのわ園で導入している介護ロボット



離座センサー

トイレから立ち上がった際に、動きを感知して音で知らせてくれる



センサーベッド ベッドから立ち上がった時、起き上がった時、寝返りを打った際に動きを感知して音で知らせてくれる。どんな行動や程度で音を鳴らすかは、個別に設定ができる

ロボット技術が応用され、利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいます。



眠りスキャン 眠りについたか、センサーでスキャンして状況を知らせてくれる。また、心拍数や呼吸数なども測ることができる



HAL 着用することで介護職員の介助動作をサポートする

インベションへの期待

コロナ禍の影響を受け、多くの行事やサービスなどに変遷が求められる一方で、工夫次第で従来以上のサービスを生み出すムーブメントが起こりつつあります。

今働いている職員やこれからの未来を担う職員に、風通しの良い環境を作るために、利用者さんにさらに良いサービスを提供するために、制度改正に際して土壌を作り上げるために、インベションを味方につけましょう。

より、ビッグデータの蓄積が可能となり、エビデンスに基づく介護サービスの提供を促進することにもつながります。

間接的業務について、ICTを活用することにより、働きやすい環境づくりにつながり、介護業界のイメージを刷新しつつ、活躍の場を創出し、介護分野への多様な人材の参入促進につなげていくことが期待されています。

これを踏まえて、今年度介護保険等の報酬改訂で科学的介護情報システム（LIFE）が導入されています。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 入院中の手術		65,000円	
	保険金 外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
（ふくしの保険ホームページ）



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

（傷害保険）

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJ20-12302 2020.12.28 作成)

令和3年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用			死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補償基本A型	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用B型	基本補償(A型) 保険料	
	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円	

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJ20-12299 2020.12.28 作成)

専門家のアドバイザーを派遣します!

- 福祉事業者の経営に関する課題・悩み事の解決に、経験のある専門家をアドバイザーとして派遣します。
- アドバイザーの派遣費用は無料です。1回2時間程度で、1法人年度中5回まで利用できます。
- 営利・非営利の区別なく利用できます。



こんなことが 相談できます。	人材育成／キャリアパス構築		
	運営管理	経営改善	会計・税務
	労務管理	法務	BCP(事業継続計画)
職場における心の健康づくり			

最近の相談事例

- ▶ 職員のハラスメント行為への対応方法を相談したい。
- ▶ 働き方改革に併せて就業規則を見直したい。
- ▶ キャリアパスの構築をしたい。

派遣する専門家

弁護士	税理士
社会保険労務士	中小企業診断士
産業カウンセラー	福祉事業経営者 他



- ※アドバイザーの助言をもとにした最終的な判断は、相談者側で行ってください。
- ※「信州福祉事業所認証・評価制度」の取り組みを宣言している法人、認証された法人は、7回までアドバイザー派遣を利用できます。
- ※ご相談内容については、秘密を厳守します。



アドバイザー派遣事業を活用して「信州ふくにん」を取得しよう!

アドバイザー派遣事業は経営課題の解決だけでなく、人材育成制度の構築にも利用できます。
信州ふくにん(信州福祉事業所認証・評価制度)の評価基準をクリアできれば、職員の定着率も、ぐっと上がります。

アドバイザー
派遣事業

信州福祉事業所
認証・評価制度



長野県社協 福祉人材センター

TEL:026-226-7330 E-mail:jinzai@nsyakyo.or.jp



県内の社会福祉協議会による地域公益活動 「長野県あんしん創造ねっと」の取組

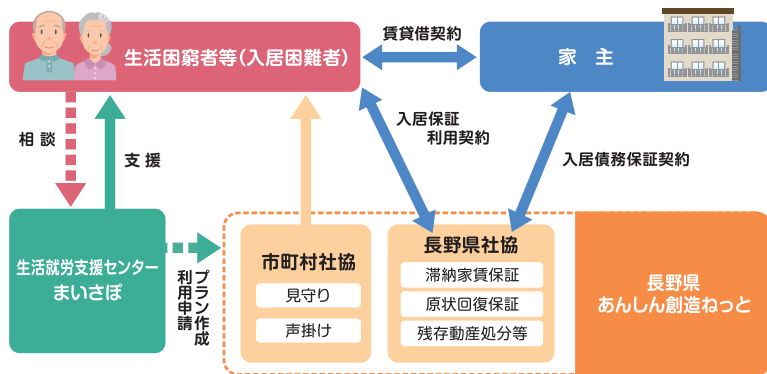
「長野県あんしん創造ねっと」とは、県内の社協(市町村社協及び県社協)が参画する地域公益活動のことです。社会的課題の解決に取り組み、また既存の公的制度などでは支援が届かない個別の生活課題に対応するため、次のような支援メニューを開発し、各地域で取り組んでいます。

- 入居保証・生活支援事業
- 身元保証・就労支援事業
- 乳幼児支援品提供事業
- 買い物等同行支援事業
- 医療受診支援事業
- 地域住民との協働活動支援事業

今回は、賃貸住宅への入居や就職の際に求められる「保証人」がいないことで住居や就労が拒まれることがないように取り組んでいる「入居保証」「身元保証」の事業について紹介します。

入居保証・生活支援事業

賃貸住宅に入居する際、保証人が確保できず困っている方に対して、家主と債務保証契約等をつなぎ、市町村社協が見守り等を行うことで、利用者の住居を確保し自立を支援します。



事例 60代男性 ひとり暮らし

両親と暮らしていたが、他界し単身生活となった。元妻と娘2人とは絶縁状態である。また兄弟がいるが疎遠な状態である。

多額の借金の返済や民間アパートの家賃が家計を圧迫しており、公営住宅への転居を希望していたが、保証人が確保できず、賃貸借契約が取り交わせなかったため、まいさばの相談に至った。

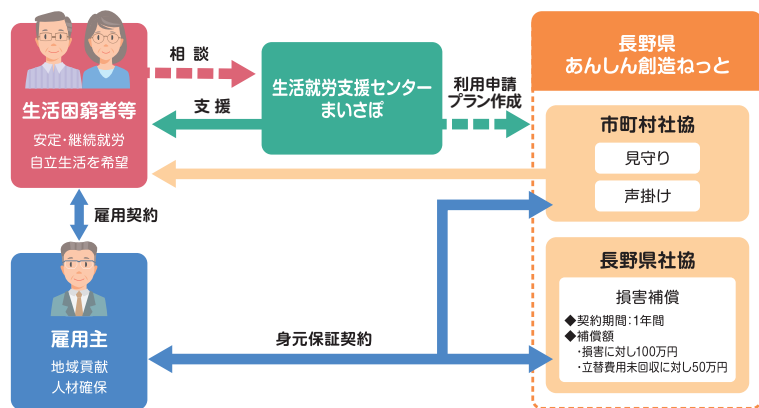
その後、本事業の利用で住まいを確保することができた。併せて家計改善や見守り支援の実施で、あんしんできる生活への一歩を踏み出した。

これまでの実績

累計契約件数 **216件** (契約終了再契約件数含む)
※令和3年6月末時点

身元保証・就労支援事業

就職の際、保証人がいなくて困っている方に対して、身元保証を補うための損害補償と、市町村社協が見守り等の支援を行うことで自立を支援します。



事例 50代男性 母親とふたり暮らし

母親の年金収入を生活費として、ひきこもりの生活が10年続いていた。母親が後期高齢者となり、いつまでもこの生活を続けるわけにはいかないと決意し、まいさばの支援を受けながら就職活動を開始した。

福祉資格を有しており、福祉分野の就職先が見つかったが、県外出身ということもあり、母親以外に頼れる人がおらず身元保証人の確保ができなかった。

本事業を利用することで雇用が決定し、引きこもりから脱却し、自立に向けて一歩を踏み出すことができた。

これまでの実績

累計契約件数 **8件** (うち3件終了)

このように、「保証」に関する取組を進めてきましたが、住居に関わる「連帯保証人」や就労にあたっての「身元保証人」、こうした制度がそもそも必要のない社会を将来的に創っていくことで、個々の生活の「不安」を「あんしん」に変えていくことができます。私たちは、「保証」の課題に限らず、個別の生活課題を受け止め、様々な社会課題に対応していくため、関係機関と協働し、地域住民などの協力を得ながら、より多くの方々と協働した実践によって「あんしん未来」を創造していくことを目指していきます。

お問い合わせ **長野県あんしん創造ねっと事務局(長野県社会福祉協議会内)**
TEL: 026-226-2035 FAX: 026-291-5180

皆が成長できる 働きやすい仕組みづくり

社会福祉法人ハーモニー(松本市)



リハビリの一環として、利用者と中庭で育てた野菜を調理



社会福祉法人ハーモニーのスタッフの皆さんと利用者

今号から「信州ふくにん」認証事業所のヒーローをご紹介します。「その人らしく生きる」を理念に掲げ、人材を大切にしたい取り組みを展開する「福」ハーモニーでリハビリテーションのリーダーとして活躍する浦野篤さんを訪ねました。

静岡県の病院勤務を経て、2018年結婚を機にUターン就職した浦野さん。同法人ではリハビリのスタッフは機能訓練室ではなく介護棟に入って介護職員たちと動くことを重視しています。その取組の過渡期に入職した浦野さんは、手探りのなか、質の高いサービスを利用者に提供しつつ皆が働きやすい環境を模索してきました。

リーダー就任後は月2回の勉強会や専門書の導入を通じ、常に切磋琢磨でき、専門性も組織性も高められる仕組みづくりに努めています。時には職種間の葛藤もありますが「最近ではメンバーが困っている時にすぐ対処できたり、皆が



▲社会福祉法人ハーモニーHP

意見を言いやすい雰囲気になり、一人ひとりがチームとして前向きに仕事に取り組んでいるのがやがいがいいとのこと。入職1年目には第一子誕生で1カ月間の育休を取得し、今夏の第二子誕生時も取得予定で、自分らしく働ける職場への感謝も話します。

法人としては介護のブランド化を重視し、資格取得やキャリアアップの支援にも力を入れ、もともと評判の高い人事評価も今年度からはコンピテンシーを意識したものに変更しました。「信州ふくにん」の認証により制度が見直せ、採用説明会では優先的に配慮していただけるなどの利点もあります。よりよい事業所をめざす法人は絶対にトライすべき価値があります」と法人本部の青木朗本部長と平田健本部長補佐は思いを寄せてくれました。

WEBでも
ご覧になれます



信州福祉事業所認証・評価制度制度については「信州福祉・介護のひろば」HPをご覧ください。



●ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

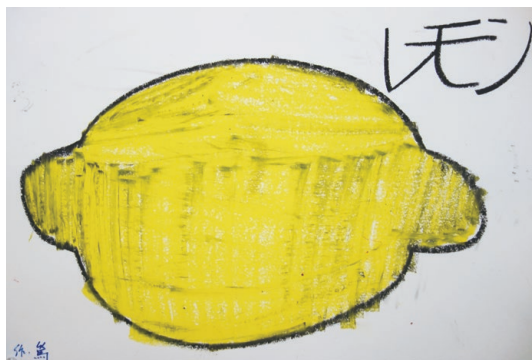
webでもご覧になれます

長野県社会福祉協議会 福祉・介護べんり帖



長野県福祉研修
実施団体
きやりあねっと

信州福祉・
介護のひろば



ざわめくアート

『レモン』 クレヨン 画用紙

作者:関嶋 篤(せきじまあつし) 36歳
飯綱町在住

画面いっぱい堂々とレモンが鎮座している。作者はまさにレモンを描いているのだろうが、じっと見入っているといろんな想像を掻き立てる。空飛ぶ円盤が空中に浮かんで僕らを観察しているようでもあり、こちらをじっと見つめている顔のようでもある。

関嶋さんは身近な食べ物などシンプルな構図を、クレヨンで強い筆圧で描く。このレモンは黒の線が描かれて、黄色のクレヨンをぐいぐいグリグリ塗りこんでいる。その過程でこすれて黒が混じる。それがレモンの存在感に重みと深みをもたらす。見る人の想像力を掻き立てるのは、そのシンプルさと重み・深みから来るのだろう。しかし、指先に力をいれて、クレヨンをグリグリ塗りこんでいる時の作者の本当の気持ちは分からない。

障がいのある人の表現にはナゾがいっぱい漂っている。だからこそ魅力的なんだが。

(ながのアートミーティング 取材)